抄 録

本號抄録擔當者(イロハ順)

金 森 虎 男 川 上 政 雄 高 橋 新 次 郎
長 尾 優 藤 田 恒 太 郎

基礎醫學

琺瑯表面薄膜組織ニ對スル論爭問題ニ就イテ

Über strittige Frage in der Histologie des Schmelzoberhäutchens von

W. Meyer (V. f. Z. H., 1930 H. 1)

1921 年以前ハ琺瑯表面薄膜ハ單層デアルト考ヘラレ、其ノ如何ナル細胞ヨリ由來スルカモ勿論不明デ、或ハ内琺瑯上皮ヨリ、或ハ外琺瑯上皮ヨリ發生スルモノト考ヘラレタ。

1921 年ニ Gottlieb ハ上皮ノ齒牙附著問題ニ關スル業績ヲ發表シ、始メテ琺瑯表面薄膜ノ二層ヨリ成レル說ヲ提起シタ。即チ彼ニヨレバ琺瑯上小皮ハ造琺瑯細胞ヨリ由來スル第一次琺瑯表面薄膜ト、内琺瑯上皮ノ消失後外琺瑯上皮表層ノ石灰化ニヨツテ生ズル第二次琺瑯表面薄膜トヲ區別スル事ヲ得、而シテコノ第二次琺瑯表面薄膜モ亦露出セル齒冠部ノ琺瑯質ノ全表ヲ被覆スルトイフノデアル。

Gottlieb ニ次イデ彼ノ說ノ繼承者ナル Sicher モ亦 8 葉ノ圖版ヲ以テ第二次琺瑯表面薄膜說ヲ明示シタ。

然ルニ吾人ハ Gottlieb ノ該學說ニ對シテ既ニ 1925 年(V. f. Z. H. Heft 3.)ニ於テソノ肯定不可能ナル旨ヲ發表シ、Gottlieb 氏ニヨツテ正常ノ構造ト認メラレタル第二次琺瑯表面薄膜ハ琺瑯白堊境界部ノ琺瑯表面薄膜ニ偶々見出サルル非恒常の所見ニ過ギザル事、從ツテ本來ノ琺瑯表面薄膜ハ Euler 及ビ Weski ガ發見シタル如ク Kölliker 及ビ V. Ebner ノ所謂造琺瑯細胞ノ小皮縁ニ外ナラザル事ヲ論ジテ置イタ。

コノ見解ニ對シテ先ヅ Orban ハ Z. f. St. 1926, Heft 2 ニ於テ意見ヲ發表シテ居ルガ之ハ後述スル事トシ、先ヅ吾人ノ見解ヲ支持スル若干ノ顯微鏡の所見ニ就キ説明シヤウ。

正常齒牙ノ顯微鏡の所見ニ琺瑯質ノ表面ニハ造琺瑯細胞ヨリ發生セル固有琺瑯表面薄膜が存在シ、之ト琺瑯質トノ間ハ堅固ニ結合セラレテ居ル。コノ固有琺瑯表面薄膜

ハ注意深く作製セル標本ニ於テハ琺瑯質ノ全表面ニ互ツテ即チ齒冠尖部ニ於テモ亦琺瑯質ノ邊緣部ニ於テモ認メル事ヲ得ルモノデアル。齒牙出齦ニ際シテハ琺瑯表面薄膜ハ琺瑯上皮ヨリ次第ニ剝離シテ行クモノデ、コノ際決シテ Gottlieb ノ第二次琺瑯表面薄膜ヲ被ツテ居ナイ。

炎症性齒牙ノ顯微鏡の所見ニGottlieb ノ第二次琺瑯表面薄膜ハ炎症ノアル齒牙ニ於テノミ認メ得ルモノデアル。吾人ノ觀察セル標本ノ一ニ就イテソノ所見ヲ述ベヤウ。炎症ハ齒齦緣ヨリ琺瑯白堊境界マデ波及シテ居リ、琺瑯上皮ハ白堊質部マデ延ビ下ツテ居ル。第二次琺瑯表面薄膜ハ齦囊底ヨリ可成リ深部マデハ缺除シテ居リ、ソレヨリ更ニ深部ニ於テ始メテ出現シ、琺瑯白堊境界ヲ越エテ尙ホ下方マデ追及シ得ル。強倍率ニテ精査スルニコノ第二次琺瑯表面薄膜ハソノ被覆狀態至ツテ不規則デ、或場所デハ薄ク、或場所デハ殆ンド消失シ、又或場所デハ強く肥厚シテ居ルヲ認メル。第二次琺瑯表面薄膜ノ出現場所ヨリ上方ニ於テハ單層ヨリ成ル第一次琺瑯表面薄膜ノミヲ認メ而モ之ガ直接琺瑯上皮ニ接續シテ居テ、コノ兩者ノ間ニ第二次琺瑯表面薄膜ノ介在セシ事ヲ思ハセル如キ痕跡ハ全然認メラレナイ。カカル所見ハ明カニ Gottlieb 一派ノ所説トハ相容レナイ所デアル。

カカル研究成績カラ余ハ Gottlieb ノ説ヲ捨テ、第二次琺瑯表面薄膜ハ出齦トハ關係ナク寧ろ炎症ノ影響ヲ蒙リテ生成セルモノナラント結論スルニ至ツタ。

Orban ガ掲載セル插圖(Z. f. St., 1926. Heft 2)ニ於テモ之ヲ精査スル時ハ炎症ノ存在セシ事ヲ認メ得ベク、ソノ第一次琺瑯表面薄膜ノ表面ニハ細菌被苔ノ附著セルヲ發見スル事ガ出來ルノデアル。Orban ハ該標本ニ於テ小皮ハヨク發達シ、齒齦緣ヲ越エテ遠ク齒冠ニ迄追及シ得ト述ベテ居ルガ、ソレハ該標本ガ顯微鏡下デ100倍ニ擴大セラレテ居ル事ヲ忘レタモノデアツテ、該標本ニ於ケル第二次琺瑯表面薄膜ノ追及シ得ル距離ヲ實物大ニ換算スレバ僅カ0.25m.m.ニ過ギナイノデアル。吾人ハOrbanト同様ナル標本ヲ多數檢査シタガソノ第二次琺瑯表面薄膜ハ齒齦緣ヲ越エテ上方マデ延ビテ居ル距離ハ極メテ僅少ナモノデ、之ヲ齒冠マデ追及シ得ル如キモノニハ全然遭遇シナカツタ。而シテ是等ノ標本ノ總テニ於テ炎症ノ存在セル事ヲ認メタルハ勿論デアル。

吾人ハ Gottlieb, Orban, Sicher 諸氏ノ所説ヲ肯定スル前ニ彼等ニ對シテ次ノ如キ顯微鏡寫眞ノ提示ヲ要求スルモノデアル。

1. 齒冠尖出齦ノ直前ニ於テ、齒冠尖部ノ第一次琺瑯表面薄膜ト琺瑯上皮トノ間ニ角帽(Hornhaube)ノ挾マレテ居ル狀態ヲ示スモノ。

2. 角帽ヲ被ツタ齒冠尖ガ將ニ出齦シ、ソノ角帽ヲバ齒頸部ニ迄追及シ得ル如キ標

本。

3. 齒牙既ニ咬合状態ニアリ、第二次珐瑯表面薄膜ハ齒冠ヨリ齦囊底マデ達セル標本。

而シテ上ノ3種ノ標本ハ全然炎症ニカカツテ居ナイモノタル事ガ必須條件デアル。

若レ是等3種ノ標本ノ總テニ於テ第二次珐瑯表面薄膜ヲ認メ得ラレルナラバツハ注目ニ値スル事實デアツテ、吾人ノ所見トハ全ク相容レナイモノデアル。吾人ノ検索セル範圍ニ於テハ第二次珐瑯表面薄膜ヲ認ムル標本ニハ必ズ炎症ヲ伴ヒ、炎症ナキ標本ニハ決シテ第二次珐瑯表面薄膜ヲ發見シナカツタ。故ニ吾人ハ Gottlieb 一派ノ諸氏ヨリ上述ノ如キ寫真版ヲ以テ吾人ノ所説ノ誤レルヲ訂正セラレザル限り Gottlieb ノ第二次珐瑯表面薄膜 (sekundäres Schmelzoberhäutchen) チバ齒周炎性薄膜 (Cuticula parodontitica) ト命名シ、正常状態ニ於テハ造珐瑯細胞ヨリ發生スル Kolliker ノ珐瑯表面薄膜 (Schmelzoberhäutchen) ノ存在ノミヲ信ゼントスルモノデアル。

齒科外科

所謂濾胞性齒牙囊腫ニ關スル觀察

Beobachtungen bezüglich der sogenannten Follikulären Zahnzysten
von K. Bloch-Jørgensen, Zeitschrift für Stomatologie, 1930, Heft 3.

著者ハ Copenhagen ノ學童齒牙診療所ニ於テ、約7ヶ年ノ長日月間ニ得タル多數ノ材料ニ就キX光線學的、病理組織學的及細菌學的ニ研究シタリ。

而シテ其ノ材料ハ次ノ如シ。

濾胞性囊腫

	上顎	下顎
切齒部	6	—
犬齒部	8	—
乳臼齒部	12	19
	26	19

濾胞性囊腫ノ初期

	上顎	下顎
切齒部	4	1
犬齒部	9	—